

「資源としての河川利用の高度化に関する検討会」の開催趣旨について

平成26年12月

国土交通省

1. 目的

近年、河川利用に対するニーズとして、治水面・利水面の機能にとどまらず、再生可能エネルギーへの利用や、河川空間を活かした景観・まちづくりへの利用など、資源としての河川の有効活用の観点からの新しいニーズが高まっている。

河川のエネルギー利用については、地球温暖化対策や近年のエネルギー自給率の向上への関心の高まりから、再生可能エネルギーの普及拡大が図られており、小水力発電の導入についても注目されている。

一方、河川空間を活かした景観・まちづくりへの利用については、平成23年度に河川敷地占用許可準則を改正し、民間活力を活用して河川敷地を賑わいのある水辺空間として整備するための取組を進めているところであるが、その利用は一部地域にとどまっていることから、一層の普及促進方策が必要となっている。

このような状況を踏まえ、河川の流水と河川敷地のさらなる利用の可能性等、我が国経済の発展に資する河川利用のあり方等を検討し、資源としての河川のポテンシャルをさらに発揮させるため、有識者等から構成される検討会を開催するものである。

2. 検討事項（案）

- 小水力発電の普及促進に向けた方策等について
- 魅力ある水辺空間形成の普及促進に向けた方策等について